

腫瘍性疾患を持つデグーの文献調査及びアンケート調査

Literature review and questionnaire survey on degus with neoplastic diseases

齊藤 結
指導教員 富田 幸子

ヤマザキ動物看護大学 動物看護学部 動物看護学科 病態生理学研究室

本研究はげっ歯類であるデグーの飼育普及を目的として、腫瘍性疾患を持つデグーの文献調査及びアンケート調査を実施した。比較的線維肉腫の発生が多く認められ外科的治療が選択される一方で、飼育者はデグーの疾患情報や飼育情報を求めていることが分かった。

キーワード:デグー, 腫瘍性疾患, 飼育, 症例, アンケート

1. はじめに

犬や猫、牛、豚、トリなどの産業動物以外の動物は、総称してエキゾチックアニマルと呼ばれるが、近年ペットショップで生体販売されているデグー(*Octodon degus*)もエキゾチックアニマルに含まれる。デグーは小型のげっ歯類だが、高い知能を保有し道具の意味を理解して扱えることや鳴き声による高いコミュニケーションスキルを持つことなどからペットとして注目されているだけでなく、高次認知機能モデルを始めとした様々な研究に利用されている。本研究ではデグー飼育の更なる普及を目的としデグーの腫瘍性疾患における調査を実施した。

2. 方法

調査方法はデグーの基本情報(生態, 飼育方法, 特徴)を整理し著者飼育デグーに発生した腫瘍性疾患である線維肉腫症例をまとめ、さらに症例報告の調査、インターネット上でデグー飼育者に対するアンケート調査を実施した。

3. 基本情報

デグーはテンジクネズミ亜目デグー科デグー属に分類される。野生ではチリの北部(パナエル)から中部(クリコ)にかけて生息し山岳地帯が多いチリの形状に合わせアンデス山脈の西側斜面

の標高 1200m 程の半乾燥地帯に生息している。当動物は群れを作り野生下では遺伝的関連性が低い個体とも共同で生活する。また昼行性(時期により薄明薄暮)であり、活動時間の違いから野生下ではヤブチンチラネズミと巣を共用することも知られる。飼育下における適正温度は $24 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、適性湿度は 50%前後が理想である。飼育ケージは脚力が強くジャンプ力に優れているため高さがあるものが望ましい。また金属製飼育ケージを齧ることにより発生する不正咬合は当動物に頻発する疾患であるため注意が必要である。食事は草食性のため主食に牧草、副食にペレットを与える必要がある。牧草には大きく二種「イネ科」「マメ科」があるが、デグー飼育者は主にイネ科であるチモシーを給餌している。ペレットは非構造化炭水化物である糖やでんぷんを可能な限り含まない製品が望ましい。複数飼育は可能であり子育てにおいてはオスや血縁関係のないメスが子育てに加わる様子も確認される。デグーの特徴は「高知能」「音声コミュニケーション」の二点である。サルやカラスのように道具の意味を理解して使用できる唯一のげっ歯類であり、高い知能を持つことから高次認知機能のモデルとして利用されている。また、音声コミュニケーションとして別名「アンデスの歌うネズミ」と呼ばれ 15~17 種もしくは 15~20 種程の鳴き声を有する。

4. 著者飼育デグー線維肉腫症例

2019年5月生まれの雄で、ブルーパイド被毛カラーで単頭飼育を2019年8月に開始した。既往歴は不正咬合、下顎に膿が溜まる、捻挫、皮膚糸状菌症がある。2022年7月22日に食欲が消失したためかかりつけ医で奥歯が頬に刺さっているという診断を受け、歯を削る処置を受ける。同年8月18日右頬の腫れが見られ、24日には下顎まで腫れが広がる。その後薬剤による治療を行うも効果が見られなかった。そのため同年9月18日にセカンドオピニオンの下、レントゲン検査で下顎の骨融解が見られ治療法がない旨を告げられる。その後かかりつけ医にて処方を受けたフードで強制給餌を続け、同年9月24日に更に別の動物病院で頬の腫れの切除手術を実施した。摘出した組織の病理組織検査と細菌培養同定・感受性検査の結果、線維肉腫である診断を受けた。

5. 症例調査結果

デグーの腫瘍性疾患は犬や猫と比べ発生が少なく研究報告及び臨床例は非常に少ない。当動物の腫瘍発生率については300匹を対象とし有病率を示した研究があり、合計300匹のうち腫瘍性疾患は6件の報告が認められた(参考文献2)。腫瘍発生割合は2%となるが、比較として犬では10歳で17.5%、猫では10歳で5.3%に腫瘍性疾患が認められるためデグーの腫瘍性疾患発生率は比較的低いと言える。また収集した症例報告10例を検討したところ比較的線維肉腫(上皮系腫瘍性疾患)の発生が多いことが分かった。

6. アンケート調査結果

アンケートは日本国内のデグー飼育者及びデグー飼育に関心がある方を対象とし2024年6月から同年9月までインターネット上にて実施した。腫瘍性疾患調査、デグー飼育者の獣医療への要求を明瞭にすることを主な目的として実施し

た。得られた回答は8件であったが、腫瘍性疾患を持ったデグー飼育者の回答は得られなかった。しかし、デグー飼育者が情報を得る手段としてインターネットと同率で動物病院が選択されること、デグーの疾患に対する情報提供を希望していることが分かった。

7. 考察

デグーの腫瘍性疾患には比較的線維肉腫(上皮系腫瘍性疾患)の発生が多く認められた。アンケート調査ではデグー飼育者が腫瘍性疾患に関する情報をインターネットや動物病院等で求めていることが分かった。今後、日本において当動物が普及することと比例し腫瘍性疾患症例は増加していくと考える。そのためエキゾチックアニマルに携わる獣医療関係者はデグー飼育者の情報ニーズに合わせ適切な情報提供を行うことがデグー飼育の更なる普及に必要であると考えられる。

参考文献

1. 大野瑞絵, デグー完全飼育: 飼い方の基本からコミュニケーションまでわかる. 誠文堂新光社, 2015, pp61
2. [V Jekl](#), Diseases in pet degus: a retrospective study in 300 animals, J Small Anim Pract, 2011, 52(2), 107 ~ 112